

山部会 これまでの進捗状況と今年度の活動計画

2019年6月 岡崎市



2019年9月 豊田市



2019年10月 碧南市



2019年11月 長野県松川町・大鹿村



日時：令和2年7月3日（金） 場所：岡崎市額田センター「こもれびかん」



5. (2) 山部会の活動進捗報告

《令和元年度の当初目標》

9年間の取り組みの成果をとりまとめるとともに、これまでの4つのテーマについて、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。また、WGはこれまで通り地域持ち回りで行い、必要に応じて、フィールドワークを開催する。

<テーマ>

<解決手法>

①流域圏担い手づくり事例集

森林の適切な管理は流域の意識向上(山村の再生)が重要。まずは人づくりに取り組む。

②山村ミーティング

山村再生を支援する取り組みへの参加・情報共有を行う。

③森づくりガイドライン

流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。

④木づかいガイドライン

矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動スケジュール

今年度の活動としてWG4回、フィールドワーク4回、まとめの会を1回開催した。

活動(参加者数)	日時	場所
第51回WG(23名)	6月22日(土) 10:00~12:00	(岡崎市) ・岡崎市額田センター「こもれびかん」(集会室)
フィールドワーク①(25名)	6月22日(土) 18:30~20:30	(岡崎市) ・岡崎市ホテル学校(岡崎市鳥川町)と湧水群
第52回WG(13名)	7月19日(金) 13:30~16:30	(根羽村) ・根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
フィールドワーク②(11名)	7月20日(土) 9:00~12:00	(根羽村) ・根羽村役場、グリーンハウス森沢、 古民家「まつや邸」
第53回WG(15名)	10月25日(金) 14:00~17:00	(豊田市) ・豊田市生涯学習センター 稲武交流館第一研修室
フィールドワーク③(8名)	10月26日(土) 9:00~12:00	(豊田市) ・萩野NPO結の家「工房」、諏訪神社、 桑田和多目的集会場
第54回WG(16名)	12月6日(金) 14:00~17:00	(恵那市) ・HYAKKEI(百経)
フィールドワーク④(14名)	12月7日(土) 9:00~12:00	(恵那市) ・明智城址の里山林整備箇所
第11回山部会 まとめの会(20名)	1月28日(火) 13:00~17:00	(豊田市) ・豊田市職員会館2階 第1会議室

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

①流域圏担い手づくり事例集 | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることをめざした事例集交流会を実施する>

- 流域圏担い手づくり事例集交流会2019を6月に岡崎市で開催した。
- 川部会や海部会所属のメンバーも多く参加し、10年を迎える流域圏懇談会のとりまとめについて意見交換を行った。10年誌編集委員会発足のきっかけとなった。

<これまでの事例集づくりで得られた情報と、取材先団体のカテゴリーや団体間の関係を整理し、現段階での事例集づくりの成果をまとめる>

- 今年度は、事例集の作成を休止し、これまでの総括を10年誌編集委員会で行うこととなった。まず、これまで取材を行った102団体に対して、団体の趣旨等でクラス分けし、その関係性とつながりについて意見交換を行った。



事例集交流会実施状況



10年誌編集委員会における事例集作成のふりかえり

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

②山村ミーティング | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜矢作川流域の森づくり・木づかい担い手を考えるシンポジウムを山部会として開催する。＞

①矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの結果を報告する

○ 森の健康診断報告会等で、ヒヤリング結果を報告した。

②有識者と当事者の意見を発表してもらう

○ 地域持ち回りの山部会WGにおいて、懇親会と宿泊を通して有識者と当事者の意見交換の場が設けられた。

③矢作川感謝祭への参加を懇談会や流域関係者に呼び掛ける

○ ヒヤリングの際に、各森林組合において、感謝祭への参加を呼びかけた。組合関係者にも恒例イベントとしての認識が広がっている。



森の健康診断報告会の様子



懇親会における意見交換の場



矢作川感謝祭における流域の森林組合の参加

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜矢作川流域の森林が直面している課題と、その解決に向けた具体的な提案を、河川管理者、沿岸漁業者、流域住民にわかりやすく示し、広く共通認識を形成することを目的とした「森づくりガイドライン」作成に取り組む＞

- 流域市村の間伐面積の推移を収集し、社会的な背景（国や県市村の林業政策）、気象などの物理的要因について総合的な検討を行った。
- 地域持ち回りのWGにおいて、その地域に関係の深い方に、森づくりに関する進捗状況や課題について情報提供いただいた。

＜森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す＞

- 森林環境譲与税の使いみちについて、流域内の4自治体持ち回りのWGの中で、各担当者にご報告いただいた。
- 岡崎市森林整備ビジョン(策定後10年)の改定にあたり、森づくり協議会の設立と内容について情報共有を行った。



豊田市稲武地区の状況に関する話題提供



夕立山森林塾（恵那市）による話題提供



岐阜県の状況に関する話題提供

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

③ 森づくりガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜水循環基本法で定められた森林の雨水浸透能力または水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や自治体の対策をフォローアップする＞

- 林野庁治山課が策定した「水源の森林づくりガイドブック」が紹介され、望ましい森林整備や伐採手法について情報共有と意見交換を行った。

＜その他＞

- 森づくりに係わるフィールドワークを行い、流域内の森林整備の状況を学んだ。

- ① 岡崎市ホテル学校(岡崎市) ② はぎの森の健康診断報告会(豊田市)
- ③ 明智城址の里山整備事業(恵那市)



ホテルの生息する環境づくりの説明（岡崎市）



森の健康診断報告会（豊田市）



明智城址の里山整備事業の状況説明（恵那市）

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

＜前年度に市町村より収集した木づかいの取り組み事例を参考に、「木づかいガイドライン」作成のための取材を行う。
また、ひきつづき木づかいの取り組み事例を収集する＞

- 流域内の各市町村から取り組み事例の収集を行った。今後、引き続き取り組み事例の収集と取材を進める。

＜矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「流域ものさし・私の流域物語」をすすめる＞

- 今年度は、ものさしの制作を含め地域部会や市民部会での議論はできなかったが、部会員の多くが何とか活用できないかと模索している（市民部会では、流域ものさしの活用を望む声が聞かれた）。

＜「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域は一つ、運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくれ」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて、全国の流域関係者に向けて発信する。＞

- 矢作川流域での木づかい取り組みが、森林環境譲与税の用途事例として平成30年12月発行の「自民党国内政策研究会報告書」に紹介された。この報告書を広く関係者に配布して、流域における木づかい推進、森林環境教育の重要性、林業の担い手育成等の必要性を発信した。この他、東京（スカイツリーや府中市）での木づかいライブスギダラキャラバン（木育キャラバン）では、全国の流域関係者や世界の子供たちに向けて、日本の木の魅力や矢作川の水を大切にする流域思想を発信した。



第6回全体会議で配布された
矢作川流域ものさし



コミュニケーションのツールとなる「どこでもサウナ」



三河湾大感謝祭での木育キャラバン

5. (2) 山部会の活動進捗報告 | 令和元年度の活動成果

④木づかいガイドライン | 今年度の活動方針に対する進捗状況

<「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所等での「木づかいライブ スギダラ(木育) キャラバン」を実施する>

- 山奥の森林組合でありながら、都市部等で「市民に一番近い森林組合」として「今すぐはじめる木のある暮らし」をテーマに、年間約50回「木づかいライブ スギダラ(木育)キャラバン」を実施し、「木のアイテム展示や体験」を通して、多くのファミリーや子供たちに「記憶に残る楽しい時間」を提供した。山村から都市部に向けたこうした「木づかいサービス」を求める声は多く、「木づかいサービス」の提供により、その地域の「魅力づくりや人の輪づくり」にも貢献できることを実感した。

<個人の思い入れを尊重した里山における木づかい市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトについて根羽村をモデル地区として実施する>

- 根羽村の一森林所有者の「景観づくりに対する思い入れと協力」により、外国籍企業のCSR活動として、「サクラとハナモモの桃源郷プロジェクト」を企画し、今年度はハナモモ200本の植栽と木づかい体験を行った。今後、森林所有者の企画による企業や市民の労働参加型による継続的なオーダーメイドの山づくりと、木づかいによるプレイスメイキングを進める。

<その他>

- 木づかいに係わるフィールドワークを行い、流域内の山林管理や木材の利活用について学んだ。

①根羽村役場（根羽村）

② 萩野NPO「結の家」トカン木工塾（豊田市）



根羽村役場の地元産材の利用（根羽村）



トカン木工塾の講座風景見学（豊田市）

5. (2) 山部会の10年のふりかえり

①流域年表（山部会）

詳細は、「資料4」をご覧ください。

項目	1950 (S29)	1955 (S30)	1960 (S35)	1965 (S40)	1970 (S45)	1975 (S50)	1980 (S55)	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	
<社会>	人口(岡崎市) 岡崎市(65歳以上高齢者) 人口(郡町村) 高齢化率(65歳以上高齢者) 第1次産業人口(%) 耕作放棄地 人工林の面積(%) 人工林率(%) 田内の公営 イタイタイ数(= 070年代前半)	+14万人 +2282人 +25.7% +26.2% -16.1% -26.2% +水供給(1956年)	+17万人 +3009人 +16.1% -19.6% -16.1% -19.6% +水供給(1956年)	+19万人 +2500人 +19.6% -19.6% -19.6% -19.6% +水供給(1956年)	+21万人 +2121人 +10.5% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)	+23万人 +1988人 +6.7% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)	+25万人 +1755人 +7.5% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)	+28万人 +1722人 +4.7% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)	+30万人 +1999人 +3.7% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)	+33万人 +1222人 -3.3% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)	+35万人 +1070人 -3.3% -6.8% -6.8% -6.8% +光化学スモッグ発生増加(1970年)
<行政>											
<自然災害>											
<流域の動き> 公的機関											
企業・市民団体等											
森林組合											
農業協同組合											
<木料生産> 木材産出の動き(林野庁公表)											
トノホウス太											
スノホウス太											
スノ山元市太新街											
ヒノ山元市太新街											

5. (2) 山部会の10年のふりかえり

②山部会の10年のふりかえり一覧

詳細は、「資料5」をご覧ください。

課題	テーマ	これまでの課題	これまでの取組み	見えてきた課題	今後の試み	
山と山村	流域圏(山村再生)担い手づくり事例集	山村の担い手の発掘と交流・発展	流域の農山村担い手を発掘するため、山村再生担い手づくり事例集を作成(平成24~平成28年)	流域圏担い手づくり事例集の成果の整理、流域市民への発信方法の検討	次年度の山部会、10年誌編集委員会でのとりまとめと意見交換	
	山村ミーティング		流域の担い手を発掘するため、流域圏担い手づくり事例集を作成(平成29~平成30年)			事例集交流会を3回実施した。(平成29~令和元年)
森林	森づくりガイドライン	他部会とのコミュニケーション・出発点の共有	林業従事者の現状把握	林業担い手100人ヒヤリングを行い、とりまとめた。(平成29~令和元年)	森づくりガイドラインの策定のためにも実施(必要に応じて、山村ミーティングと森づくりガイドラインの融合を検討)	
	木づかいガイドライン		国や県の施策の共有	国、流域自治体の森林施策の周知及び意見交換を行った。(平成22~令和元年)		現地で働く林業従事者の視点に立った森づくりガイドラインの策定の検討
			森林組合同士をつなぐりの創出	流域の科学的根拠に基づいて議論を行う合同部会を開催。(平成30年)		森林を取り巻く話題の共有(国や自治体の動き・自然災害との関係)
			流域のイベントにおいて、木づかい推進を実施。全体会議において、流域アイテム「流域ものさし」を配布(平成25~令和元年)	木づかいガイドライン策定に向けた、市民や公的機関の動向の把握	懇談会で築いた人間関係を活用した、木づかいガイドラインの策定	
			流域の森林組合の協働に関する意見交換と提案。(平成30~令和元年)	流域の森林組合の協働、森林組合員の意見交換	イベント等を活用した森林組合同士の間関係の構築・新たな協働の検討	

5. (2) 山部会の次年度の活動目標

次年度の活動目標（案）

来年度は、これまでの10年をふりかえりながら、「山部会の出発点の共有」を見直すとともに、これまでの4つのテーマについて、ひきつづき情報共有と意見交換を行う。また、4つのテーマの中で、融合できる内容を精査し、必要に応じてテーマに絞り込んだ特別WGの開催を視野に議論を重ねる。

テーマ別の活動目標（案）

①流域圏担い手づくり事例集

- ・持続可能な地域づくりにつながる活動を行っている団体に取材を行い、「流域圏担い手づくり事例集Ⅲ」を刊行する。
- ・川部会、海部会を巻き込んだ流域全体の担い手を発掘する活動とする。
- ・これまでの事例集づくりで得られた情報と、取材先団体のカテゴリーや団体間の関係を整理し、現段階での事例集づくりの成果をまとめ、流域圏懇談会10年誌に掲載する。
- ・事例集の活用方法と、今後の事例集づくりの方向性について検討する。

5. (2) 山部会の次年度の活動目標

②山村ミーティング

- ・ 矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの結果をふまえ、林業技術者と市民の協働による「流域の森づくりガイドライン」を策定する（③森づくりガイドラインとの共同作業を想定する）。
- ・ ガイドラインの作成においては、林業技術者に直接意見をうかがうなど、懇談会との連携を強化する（担い手の創出）。
- ・ 矢作川感謝祭への森林組合員の参加が定着してきたため、このイベントをどのように活用するか、さらに検討を行っていく。

③森づくりガイドライン

- ・ 矢作川流域の森を守っているプロたちが、その仕事の意味や重要性を理解し、誇りをもって作業を行うための指針となり、同時に、矢作川流域の恵みで生きる河川管理者、沿岸漁業者、流域住民が、流域の森を守っているプロたちの作業の公益的な重要性を理解し、彼らをリスペクトし、応援するための指針となることを目的とした「森づくりガイドライン」づくりに取り組む。（②山村ミーティングとの共同作業を想定する）
- ・ 森林経営管理法、森林環境譲与税などの国の新たな動きを踏まえつつ、流域市町村の森林施策の着実な進行を後方支援し、流域圏全体として調和のとれた森づくりを目指す。
- ・ 水循環基本法に定められた森林の雨水浸透能力又は水源涵養能力の整備について、矢作川流域における関係省庁や地方自治体の施策をフォローアップする。

5. (2) 山部会の次年度の活動目標

④木づかいガイドライン

- ・矢作川流域内の各関係者が取り組まれている木づかい活動や推進テーマを「さあ～しよう」の形で提案していただくことにより情報を共有化し、流域内の身近な木を利用した木づかいが推進されるように「木づかいガイドライン」を作成する。
- ・矢作川の流れを絆として、個人の思い入れを込めて流域が一体となることの大切さを伝えるアイテム「矢作川流域ものさし・私の流域物語」を有志で製作し、これを全国の各流域に配布することによって全国の各流域においてその理念と製作方法を普及する。
- ・「矢作川流域ものさし・私の流域物語」の理念とは、「流域はひとつ運命共同体」・「水を使うものは自ら水をつくるべし」といった全国にも通用する矢作川の流域思想であり、こうした思想と共にある矢作川流域圏懇談会の取り組みについて全国の流域関係者に向けて発信する。
- ・「私の流域物語」に記載された物語に関わる場所での「木づかいライブ スギダラキャラバン(木育キャラバン)」の実施や、個人の思い入れを尊重した木づかいによる市民創造型・労働参加型・課題解決型プロジェクトを実施する。
- ・こうした取り組みを通して矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を定着させ「木づかいによる場所の力づくり＝プレイスメイキング」によって身近な生活空間を魅力的な地域空間に変革していく。
- ・こうしたプレイスメイキングに際し、地域住民や地域の子どもたちが一緒になって活動することにより、特に子供たちに対して、地域資源と共に生きていく様々な原体験の場を提供していく。